

●教科書紙面の変更点についての解説

従来、一般にローマ字で書き表す際には、昭和29年内閣告示に掲載の第1表(訓令式)に掲げたつづり方によるものとされ、場合によって第2表(ヘボン式と、訓令式と異なる日本式)に掲げたつづり方を用いてもよいとされてきた。それが、令和7年内閣告示において、第2表のヘボン式に基づくつづり方を取り入れて一つの表(本表)が示され、「si」と「shi」のように二通りのつづり方が示されていた音については、「shi」のようにつづり方が統一された。今回の教科書紙面の変更は、この変更を反映したものである。

●指導上の留意点

ローマ字を書き表す際には長音・促音・撥音のつづり方が問題となる。このうち長音についてはつづり方に変更が見られた。従来の長音のつづり方は、文字の上に長音符号をつけるものであったが、改定後は二通りのつづり方が示された。

① 文字の上に「^ˉ」をつけるつづり方

長音符号が「^ˆ」から「^ˉ」に変更されたが、従来と同様のつづり方である。長音を書き表す際は、基本的にはこのつづり方を用いる。

おばあさん → obāsan こうじ(工事) → kōji

② 平仮名で書き表す際と同様に母音字を並べるつづり方

長音符号を用いず、母音字を並べて、次のように書き表すこともできる。

おばあさん → obaasan こうじ(工事) → kouji

※イ列長音で発音される語、エ列長音で発音される語のうちエ列の仮名に「い」を添えて書く語については、以下のように母音字を並べて書くことが一般的とされている。このつづり方についても理解を図りたい。

おじいさん → ojiisan こうてい(校庭) → kōtei (koutei)

●学習活動の計画(例)

学習内容：ローマ字に興味をもち、ローマ字のつづり方について理解し、読めるようにする。

時	学習活動 *留意点	評価規準(学習指導要領との対応)
1	1. 学習内容を理解し、ローマ字に興味をもち。 *教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。	<p>知識・技能</p> <p>◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ)</p> <p>態度</p> <p>すすんで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもって、ローマ字に親しもうとしている。</p>
2	2. 日本語はローマ字でも表記できることを知り、母音と子音の意味を理解して、ローマ字で書かれた簡単な言葉を読む。 3. ローマ字で書かれた言葉を読み、母音と子音の組み合わせで書き表されていることに気づく。	
3	4. 長音(のばす音)、撥音(はねる音)、促音(つまる音)の仕組みと書き方を知る。	
4	5. 大文字と小文字の使い分けを知る。 6. ローマ字のつづり方に違いがあることを知る。 7. 自分の身のまわりにあるローマ字に目を向け、ローマ字表記の言葉を集めて、つづり方を確認する。 8. 学習を振り返る。	